



3Dドキュメンタリー作品

大津波3.11未来への記憶

監修 今村文彦

取材協力 東北大学災害科学国際研究所

製作著作 NHKメディアテクノロジー

NHKメディアテクノロジーは、東日本大震災直後から3Dカメラを現地に持ち込み、その時・その場所でしか撮れない被災の現実を、3年間にわたり継続的に映像記録し、これまでに7本の3D作品を制作してきました。

被災地は今、驚くべき速さで変容し、かつての風景や保存されてきた震災遺構さえ失われつつあります。とりわけ3年を迎えたこの一年は、被災地の風景と被災者の心象に大きな変化が起きています。

「絆」や「頑張れ」の熱狂が過ぎた今、未だに25万人近い人々が定住の場を確保できず、ふるさと暮らしの記憶さえ失いかねない状況のなかで、時だけが経過しています。

3年余りにわたって記録してきた「世界唯一の震災3D映像」をベースに、ようやくところを開いて語りはじめた人々に取材を重ね、海とともに生きる島国日本の「人と自然」「生と死」「破壊と再生」「過去と未来」「記録と記憶」「家族」「夫婦」等を問いかける大型ドキュメンタリー作品を製作しています。

NHKメディアテクノロジーが、25年間蓄積してきた3D映像制作技術力を基盤に、リモコンヘリを活用して空からも撮影し、被災地の膨大な広がりやリアリティを、説得力のあるダイナミックな3D映像を織り交ぜて構成します。日本語・英語版製作。長さ80分。

2015年3月に行われる「国連防災世界会議」（仙台）において、先行特別上映会を開催し、その後、国内外の3Dシアタでの上映を計画中です。

語り：役所広司 監督：河邑厚徳 監修：今村文彦 プロデューサー：智片通博

